

【議案第35号】

令和3年度浜田市一般会計予算

議案第35号 令和3年度浜田市一般会計予算について、反対討論を行います。

私は、この予算に含まれる次の3つの事業について反対であるため、本議案に反対いたします。

その3つの事業とは地球温暖化対策支援事業、浜田城資料館管理事業、そして歴史文化保存展示施設専門検討事業であります。

1つ目の地球温暖化対策支援事業は、住宅用太陽光発電システム、太陽熱利用設備及び蓄電池設備の設置を助成する事業ですが、何年も前から目標件数に達しないまま、同様の事業を続け、直近の2年間、令和元年度も令和2年度も、予算の執行率は16%という非常に低いものでした。それにもかかわらず、令和3年度においてもほぼ同様の内容の事業を、予算額を減額して提案されています。

一体、浜田市は地球温暖化についてどう考えているのでしょうか。やる気はあるのでしょうか。市長の施政方針では、「浜田市地球温暖化対策実行計画に基づき推進する」とうたわれていますが、本事業を見ると全く本気度が感じられません。

何年も続けているこの事業ですが、住宅用太陽光発電システムは固定価格買取制度の買取価格が低下してきて、設置件数は減っています。一方、蓄電池については設備費がまだ高額なため一般への普及レベルには至っていません。この情勢により低い執行率が続いているのは明らかです。しかし、事業の内容を見直さず継続するとは一体どういうことなのでしょう。思考停止というほかありません。

今、世界が持続可能な発展を目指して、脱炭素社会の実現に向けて走り出している中、国も2050年のカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を宣言しました。このままでは、浜田市は世界から取り残されてしまいます。

浜田市が取り組むことができる地球温暖化対策は、住宅用太陽光発電、蓄電池の普及以外にも、幾らでもあります。LED照明、建物の断熱化、省エネルギー機器やエコカーの導入、公共施設のエネルギーマネジメントの導入など、全庁をあげて温暖化対策に取り組むべきです。

思考停止に陥ったこの事業に、私は賛成することはできません。

次に、浜田城資料館管理事業です。この事業については、関連する条例案についての質疑と予算決算委員会での質疑で内容を理解し、賛成するつもりでいました。

しかし、昨日開催された浜田市資料館運営協議会を傍聴して、そこで明らかになった事実により、賛成することができなくなりました。

## 令和3年3月定例会議 西川 真午議員 反対討論

この事業は、現在直営で行っている浜田城資料館の運営を令和3年度から浜田市文化協会に委託し、令和4年度からは指名により文化協会を指定管理者とするものです。

昨日の浜田市資料館運営協議会の中で、出席者の一人である浜田市文化協会の関係者より、浜田市文化協会としては、浜田城資料館の業務を引き受けることはできない。会長名でその旨の回答を文書でしているとの発言がありました。

その理由は、浜田郷土資料館の運営は浜田市文化協会が指定管理者として行っているが、郷土資料館の運営業務量と同等程度の、文化協会としての業務量を抱えており、その業務については教育委員会からの評価はなく、職員は待遇面でも精神面でも報われていないというものでした。

これ以上無理なことを押しつけるような、市にとって虫のいい話は受け入れられないとも言っておられました。

このことについての真偽は、私には正確には分かりませんが、この関係者は非常に強い口調で教育委員会、浜田市を非難しており、浜田市と文化協会の信頼関係は現在成り立っていません。こんな状態で業務委託ができるのでしょうか。そんな状態で予算を出すこと自体、非常に大きな疑問を感じます。

浜田市と文化協会が信頼関係を取り戻し、浜田城資料館の業務を委託できる体制が構築できるまで、この事業の予算案に賛成することはできません。

3つ目は歴史文化保存展示施設専門検討事業です。

この事業については、昨年3月定例会議において、令和2年度予算に2年間の事業として提案されたもので、市が示した歴史文化保存展示施設の整備方針に基づき、具体的な展示内容や活用方法について専門家による検討組織を設置して検討を行う事業です。

私は昨年3月定例会議においても、この事業に反対しました。理由はこの専門検討事業の基になる整備方針は、施設の場所や大きさ、機能について、市民の意見を積み上げて議論されたものになっておらず、市民不在で決められたものだったからです。

しかしながら、この予算は賛成多数で可決され、今年度1年間専門検討委員会が行われました。

私はこの1年間も議会において、専門検討委員会でこの整備方針の検証を求め、整備方法の代替案を提案し、また検討の過程において市民の意見を聴く機会を持つようにと求めてきましたが、聞き入れられることはありませんでした。

このまま市民不在でこの専門委員会が検討を続け、本年9月に基本方針がまとめられたなら、一体どうなるのでしょうか。

実施に向けた予算が上程される来年の3月の定例会議では、4年前のようにまた置き去りにされた市民を巻き込んで不毛な論争が起きるのではないのでしょうか。

## 令和3年3月定例会議 西川 真午議員 反対討論

そして、市民不在のままこの歴史資料館が建設されれば、何十年も先まで行政と市民の間にしこりが残り、子や孫の世代まで続くことにはなりませんか。

昨年、この事業に反対された議員の皆さん、この事業は昨年と何も変わっていません。

もう諦められましたか。今なら止めることができます。

ここは一度立ち止まって、もう一度市民の声を積み上げて、時代に合った、身の丈にあった、郷土資料館の整備案を検討し、将来にわたって市民に愛される施設を造るべきです。

議員の皆さん、今回の一般会計予算 754 の事業がありますが、その中の1つぐらいなら反対でも予算を通しますか。その1つが浜田の将来を大きく変えるかもしれません。

熟考をお願いします。

以上、議案第35号 令和3年度浜田市一般会計予算について、私はこの予算に含まれる、地球温暖化対策支援事業、浜田城資料館管理事業、そして歴史文化保存展示施設専門検討事業の3つの事業について反対であるため、本議案に反対いたします。

議員の皆さんの、勇気ある決断を望みます。

以上、私の反対討論とします。